

ARIBの動き

第123回技術委員会（放送分野）が開催される

第123回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成18年7月26日(水) 午後2時から3時15分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 事務局からブラジルの地上デジタル放送方式決定について報告がありました。
- (2) 事務局からSMPTE日本会合特別経費徴収について提案があり、全会一致で承認されました。
- (3) 事務局からARIBが事務局を務める任意団体の動向について報告がありました。
- (4) 事務局からアナログ周波数変更対策業務について、進捗状況の報告がありました。
- (5) その他
事務局から最近の当会の活動状況について説明がありました。

電気通信・放送 行政の動き

433MHz 帯アクティブタグシステムの導入に向けて 情報通信審議会からの一部答申 (平成18年7月20日総務省報道発表)

総務省は、情報通信審議会（会長：庄山 悦彦 株式会社日立製作所 代表執行役執行役社長）から、平成14年9月30日付け諮問第2009号「小電力の無線システムの高度化に必要な技術的条件」のうち「移動体識別システム（UHF帯電子タグシステム）の技術的条件」のうち、「433MHz 帯アクティブタグシステムの技術的条件」に関する一部答申を受けました。

1 背景

近年、円滑で効率的な国際物流を実現するため、国際的に433MHz帯の周波数を使用したアクティブタグシステム（以下「433MHz帯アクティブタグシステム」という。）の制度整備・実用化が進められつつあります。

433MHz帯アクティブタグシステムにより、特に物流の分野において、コンテナ情報の管理、作業の迅速化等が期待されています。

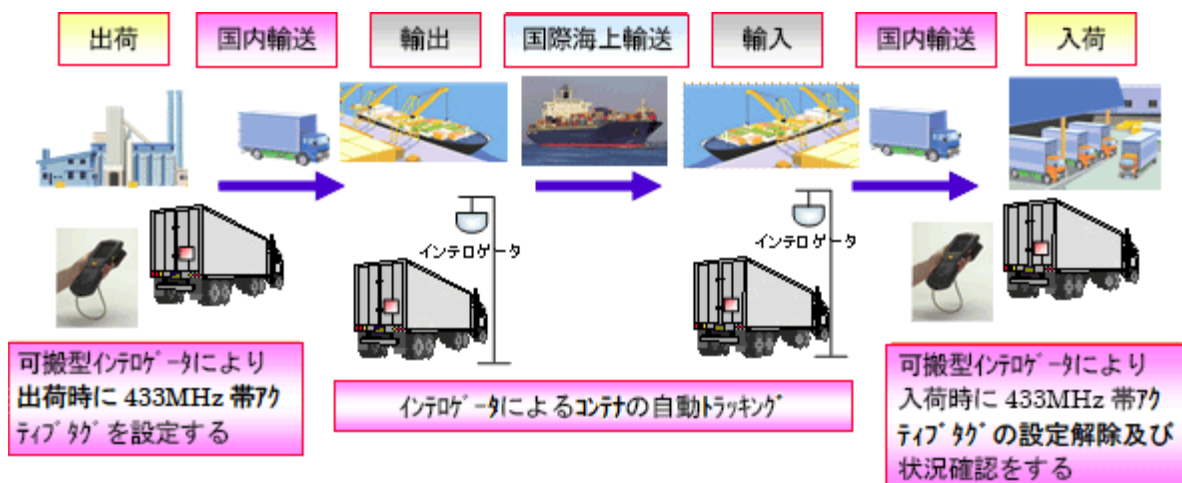
433MHz帯アクティブタグシステムの導入に向け、同審議会から「433MHz帯アクティブタグシステムの技術的条件」について一部答申を受けました。

これにより、今後、円滑で効率的な国際物流の実現が期待されます。

2 一部答申の概要

433MHz 帯アクティブタグシステムの概要

- アクティブタグシステムとは、自らの電池等からのエネルギーにより情報をやり取りすることのできるアクティブタグとそのアクティブタグの始動又は停止並びに情報の読み書きのためのデータ伝送を行うインタロゲータ（質問器）で構成されている。
- 国際物流における出入荷、輸送、輸出入の各段階で、433MHz 帯アクティブタグシステムが利用され、コンテナの開閉状況、位置追跡等の電子管理に役立っている



審議結果の概要

433MHz 帯アクティブタグシステムの主な技術的条件は以下のとおり。

項目	主な技術的条件	
	インタロゲータ	アクティブタグ
使用周波数	433.92MHz (433.67MHz~434.17MHz)	
占有周波数帯幅の許容値	500kHz	200kHz
空中線電力 (EIRP)	1) 始動のための信号を送信する場合：0.1mW 2) 1)以外の場合：0.4mW	1mW
通信方式	単信方式、単向通信方式及び同報通信方式	

送信時間 制限	送信時間	1) 始動のための信号を送信する場合：2.7秒以内に停止し、1時間当たり1440秒以内 2) 1)以外の場合：1秒以内に停止し、1時間当たり360秒以内	1秒以内に停止し、1時間当たり360秒以内
	停止時間	1ミリ秒以上	

433MHz帯アクティブタグシステム：

国際輸送用貨物（国際輸送に係る貨物又はコンテナ若しくはパレットその他これに類する輸送用器具をいう。）の管理業務の用に供するデータ通信を行うもの。

- ・433MHz帯インテロゲータ...主として港湾、空港、工場又は倉庫に設置される無線設備であって、アクティブタグの始動又は停止並びに情報のデータ伝送を行うもの。
- ・433MHz帯アクティブタグ...国際輸送用貨物に装着される無線設備であって、当該国際輸送用貨物の状況等に関する情報のデータ伝送を行うもの。

3 今後の予定

総務省では、この一部答申を踏まえ、433MHz帯アクティブタグシステムについて速やかに技術基準の策定等を進めて行く予定です。

詳細は、<http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060720_6.html>を参照してください。

狭帯域CSデジタル放送方式の高度化に関する技術的条件について
情報通信審議会からの答申
(平成18年7月20日総務省報道発表)

総務省は、情報通信審議会（会長：庄山 悦彦 株式会社日立製作所 代表執行役執行役社長）から、平成17年10月31日付け諮問第2019号「CSデジタル放送方式（広帯域伝送方式を除く。）の高度化に関する技術的条件」について答申を受けました。

1 背景

BS放送、地上デジタル放送の高精細度テレビジョン（HDTV）化、高解像度・大画面の薄型テレビの急速な普及を受け、CSデジタル放送のうち27MHz帯域幅を使用するもの（狭帯域CSデジタル放送）において、HDTV放送による多チャンネルサービスへのニーズが高まっているとと

もに、より一層のCSデジタル放送の発展を促すため、最新のデジタル放送技術の導入が望まれています。

このような状況の下、情報通信審議会情報通信技術分科会において「CSデジタル放送方式の高度化に関する技術的条件」について審議が進められ、答申を受けたものです。

2 答申の概要

総務省ホームページ

<http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/pdf/060720_9_1.pdf> を参照してください。

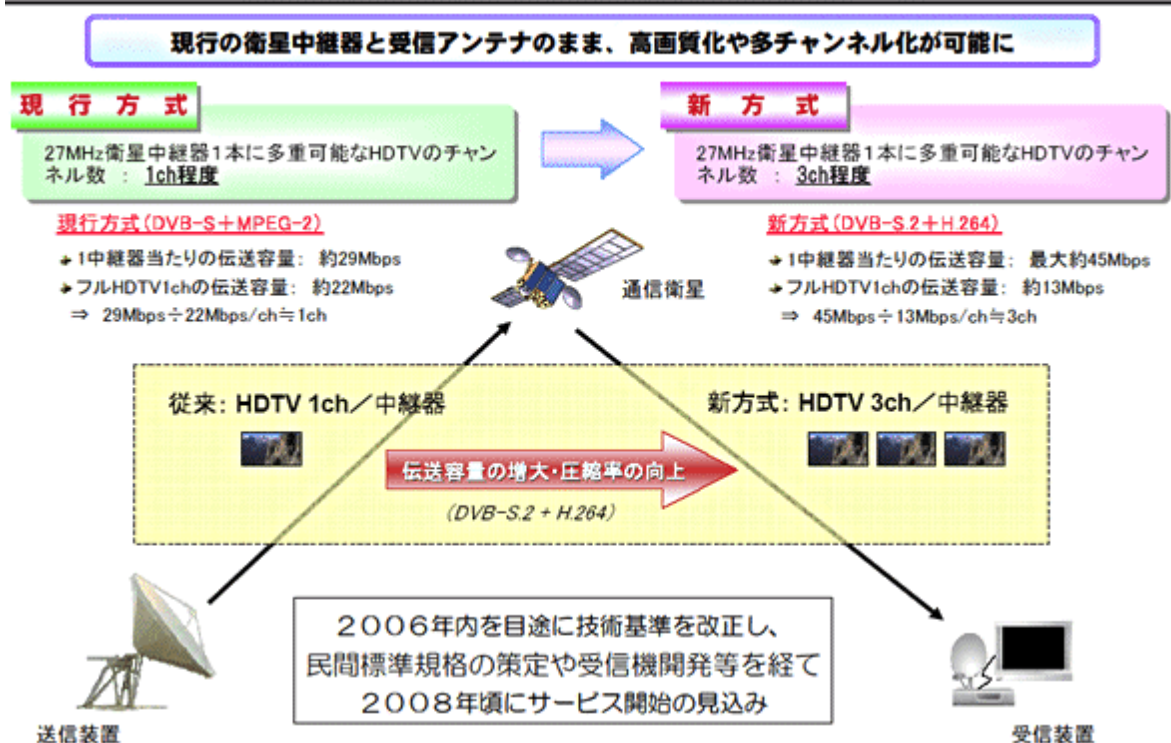
なお、本答申は、平成18年6月5日から平成18年7月5日まで同審議会が実施した意見の募集の結果を踏まえて行われたものです。

3 今後の予定

総務省では、この答申を踏まえ、狭帯域CSデジタル放送方式の高度化について、速やかに技術基準の策定等を進めていく予定です。

詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060720_9.html>を参照してください。

新方式導入による効果と利用イメージ



編集後記

毎日うっとうしい日が続いていましたが、長かった梅雨もようやく明けてきました。今年は特に梅雨前線の活動が活発で、各地に甚大な大雨被害をもたらした

ました。これも、地球温暖化による異常気象のひとつでしょうか？こういった現象が、恒常的になるのが怖いですね。

さて、梅の季節でもないのに、なぜ「梅雨」というのか皆様はご存知でしたでしょうか？梅雨の語源は中国のようで、明の時代の文献に「梅雨」（メイユイ）というのがある、これが最初ではないかと言われているそうです。説的には諸説があり、梅の実が熟す頃の雨だから「梅雨」、黴（カビ）を生じさせる雨だから「黴雨」（ばいう）が転じて「梅雨」、「毎」日のように雨が降るから同じつくりの「梅」という字が当てられたという説等々があるようです。日本では「日本歳時記」（1687年）に「これを梅雨（つゆ）となづく」とあり、江戸時代あたりから「梅雨」は（バイウ）から（つゆ）と呼ばれるようになったようです。「つゆ」の語源は「露」「汁」（つゆ）や、湿気で物が腐ってしまう事から「漬」（ついゆ）等から来ているようです。まず、「つゆ」という言葉があって、これに「梅雨」という漢字を当てたようです。

ともあれ、梅雨も明けこれから夏本番です。海や山に行かれる方も多いと思いますが、暑さで体力を消耗し易い季節です。夏バテしないように気をつけましょう。

(N.K)